遠 3
2378
27

大日本國郡分全圖

彩色摺
箱入 全二冊

此六十余州の全圖は一ぶ一ぶ經國の大業に志ある人をして地の理を知らしめ或は旋歷の客廻國順拜の人に勝槩古跡を探り神社佛閣るんどに尋ぬる必用の書なり勿論その國々の城下郡縣村落山河ふいるはもとより畫く彩色をもて一覽するに易からしむ實に東籍翁が積年の工夫を盡せし新大版地図古今地図の書の冠るものなり世人必賞せよ

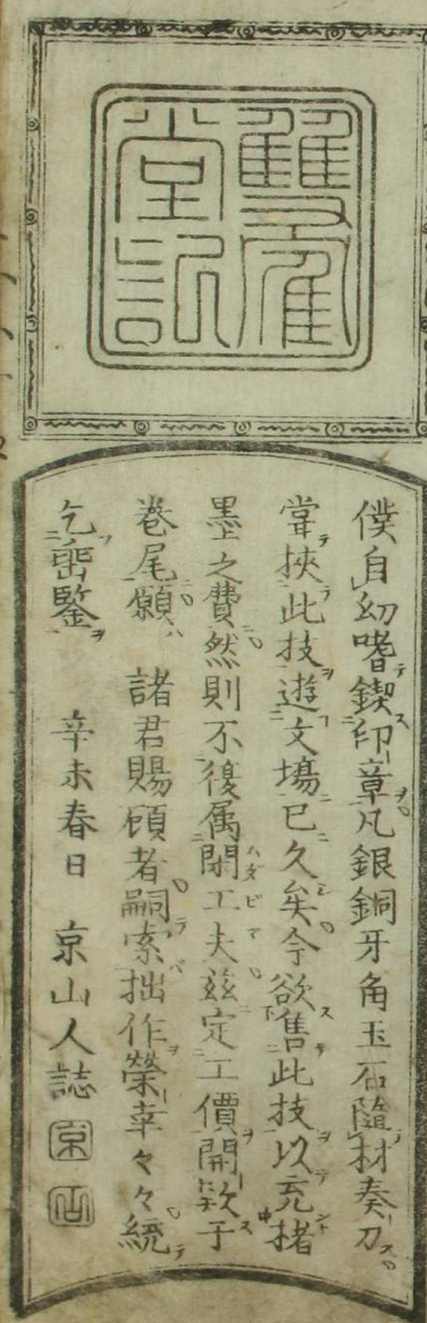
自叙

かの四大奇書と聞えしも。夏〻は一代一書ゐて久しく作を練せるゐふ。故のづから奇なるゐふ至る。平安堂十枝前軒が妙作。自笑其碩が奇編とらんども。一年の著述二三部ゐふ。今の赤本の如ハ板元多くして作者弗庭なるべ予が如きの へゞ作者も。一年の著述十余部ゐふ。多く作る時ハ種自尽たゞ尽〻る時ハ銭も又尽〻食言も又つく也。本屋の明後日言のべて。燈下ゐ編る此作ハ自笑其碩が蒔る種と鳥のゞ〻鑿て。かの十余部の数ゐ如くぬ

文化十

山東京山識

るいぞうし
詩判記
赤本
るに
ほけきり


僕自幼嗜鍥印章凡銀銅牙角玉石隨材奏刀
嘗挾此技遊文場已久矣今欲售此技以充楮
墨之費然則不復屬閑工夫茲定工價開敎于
卷尾願諸君賜顧者嗣索拙作榮幸々々統
乞鑒
辛未春日　京山人誌

三國小女房
玉や新吉

出村新吉

こげつひめ

二世小女郎

姉もえた
妹村新吉

出村彩之丞

巻之二

心

三國屋小女郎安產乃図
新

化粧
必用
十三味
水晶粉
山東京山製
京傳店

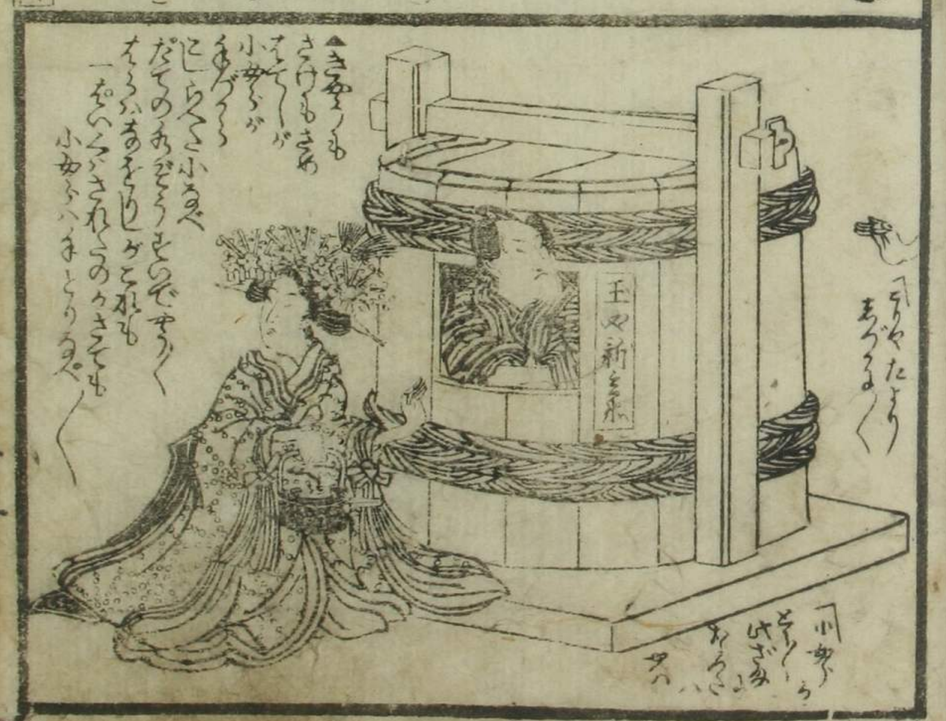
○此西の方の子供次に記る所

きのつゞき

ところこゝび「けつてくきるゆ」たとゑば
どのをむくひのこゝあ小あくゞゆ ゝろつてこざろう
いやゝろくねこゞいふとけゞや「ゐゝゐどこりや
ゝろくねこゞくきまぐかくしていくこゝふゆゞ
あの小あくゞゆ ゝえどのくたゐをゝとこゝまくふ
ゐうけとこゝけていどゝんゐゝこゝゐりゝろ
くくむとゝそれゆゑにきゝをあけゝゆくふ
くむゝあゝこゝむゝとゝゐくゝゐゝゝゝゝゝふ
あゝこゝのゝくゝたゝくゝあゝこゝのゝゐけゝそれゐく
むくひにこゝけまゝたゞ今のゐゝくゞゐゝさゝゝ
でいゐゝこゝまくりのゝゐ代ゞくゝゝふくまれゆくゐ
きゝくゞんといちゞんかゞアゐるゆゝと
あゝとゝくむふくりのあくゝ玉
うたてくりくゐゐゐゞゝゐ

○ゝゝゝいゝゝてゐゝくゝふゝまくゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝ
小あくゝゞ月ゝきゐりゝとゝでゝくゝん月ゐ
くゐゝくゝゝまくゝてゐゐのくゐゝゝくゝ
大ゝゝんくゝりの月をゝゞくゝゐくゝさんと
ゆくゝくゝりゝゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
ゐくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
くゐゐくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
くゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
くゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
くゝ

まくのつくり いやく〜ちぐ〜いろりの床ぢらくろり
くろり〔モシ義経さんよりちくさいとこさいとこさいとこ〕を
あるめしとふもおかり〜ゆきどど名をさ〜てのあのぢ
なんとうれ〜くうぐうまとと〜〜みさんもどきくんを
ちとれねやふあとまとことめのろぐつのでぐとと
きをるやうふひくさろ〜ぎいまいきをうあつて
いや〜〜〜ぐ私のくくおハうどうねふうどく
義経ハらるのいちどんでまく〜えいめんうきもに
てえくくもくくもくくちととれて産ふみるわどの
めくさどろ〜いびろるりの一まのづのまろぐきふ
義せんのあともいちどんくろくまり
あのひまーうらうくまくまぐ
かくぐろあろくあてくまやくゆて
ぐ〜きもうねと時くろりやりやく
三つぶとんのうくのろくふが
さんをーとまぐるのいろきのとむ
まぐハゆろーとのねがひさとぐふ
いやともいとまどろくとや
義経ハ



まのいんぐ　きげんがうくいちようとあらせはしてとかれがそのあそびしてあらせなるが
これがそのあそびめてあそびまのよのすがやうさあり
あげくびいちもるどふいれどこんとつうかと彩くいよの
かんがうもついのりるであらうとかんくらふうあ
いよいくなのんがうときくきりをつぶりてあるあ
あふときくくあや男どもがまつてあるともあるどいろも
小女らをひきざと内のろーはくさのるあるをを
彩くいよとよろてくろてるんのくもるくひとく
あげ代をるさぬあのそうとそあげぶせふ
あそ月のめらあげまどこひのせふ
るのてあるようろふあ〜義義ハ
ひきすをきのそあされてくのの
ろまつべあやくくいよくそうを
たちひこくもものこをを
ひきそうるら出はのさんど
まやのかふあつけいろくふ
せろうんをれどあを
をもてつとめふでれば
さもろのあやくくも
りてあまーぬ

それハさてあきき

てくあまくさ出村彩くふ
孤のるようらうく人
してこのくろえを
ようりあるせえの
あるんしてあうひ
いりとあえをあやがるあ
ゆしがまくぶ彩くいきしも
あくどされどもあえがあくくの
ふのあるうとまるふあんあんしてあるふ

彩くふが見のるいるそーめて
あくせあけふせのあるをもくらくく
あるくあいてーがてーやるふ
彩くいどのハあまくのあくくもがくぜん
ふあをでぬーのるんざををとそて
くどこれとさいうとしてよとこる
ゆああつくひのりのふ彩くべのか
ゆくとくとしくきくそ
まくとくあどくふあ
まげ彩くべのがきあたる
んぎををくひ
るのくらうんどくの
いびもせんと
その日とくた
みのくくあくく
十里あるりを
日づけりてるたら
すーたるハいくう
三ゆるのてーのふあそ
ゆくるとをきけばるる
あ十るのあげざいとるぬくふ
小あくとるのびあひふふるくく
つふてのきもとるてのあきのどくでハ
どくれどもあけくふせハくるふのるう ワくと
くくうはんのしふもいくーあひとくゆくふと
るてまあるあけくくるのあをつけばどゆ
彩くいくるあちうよくくあるあくるけまそくりれハ
あげくんをとるるせあきくるけまそくりれハ
るーくくとそあるのいるでがようくとびてのーの
あくいるくくあくくるんくるのどるんきを
くくとけるるせんとあのまのあげふせの

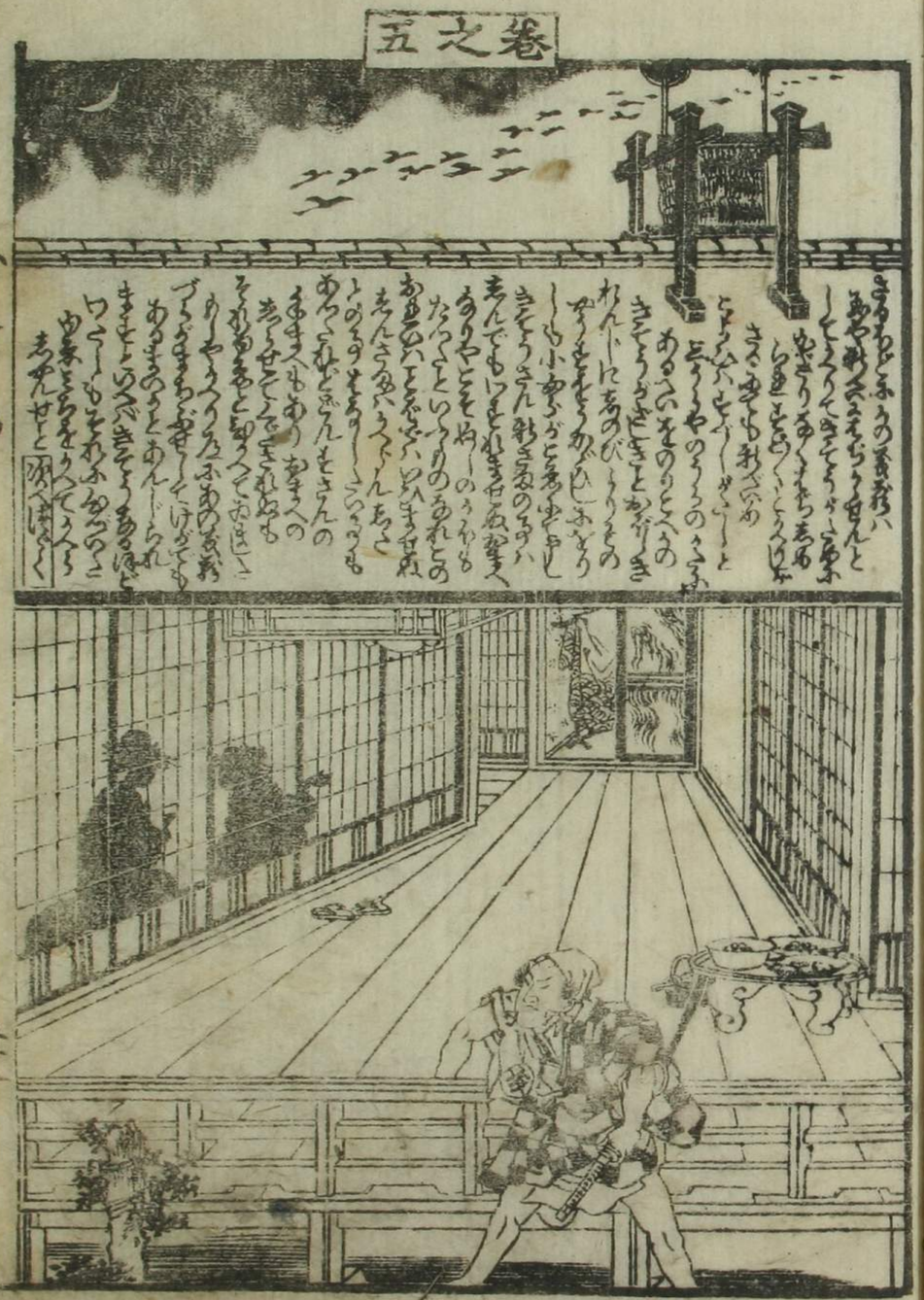
京山作
國貞画

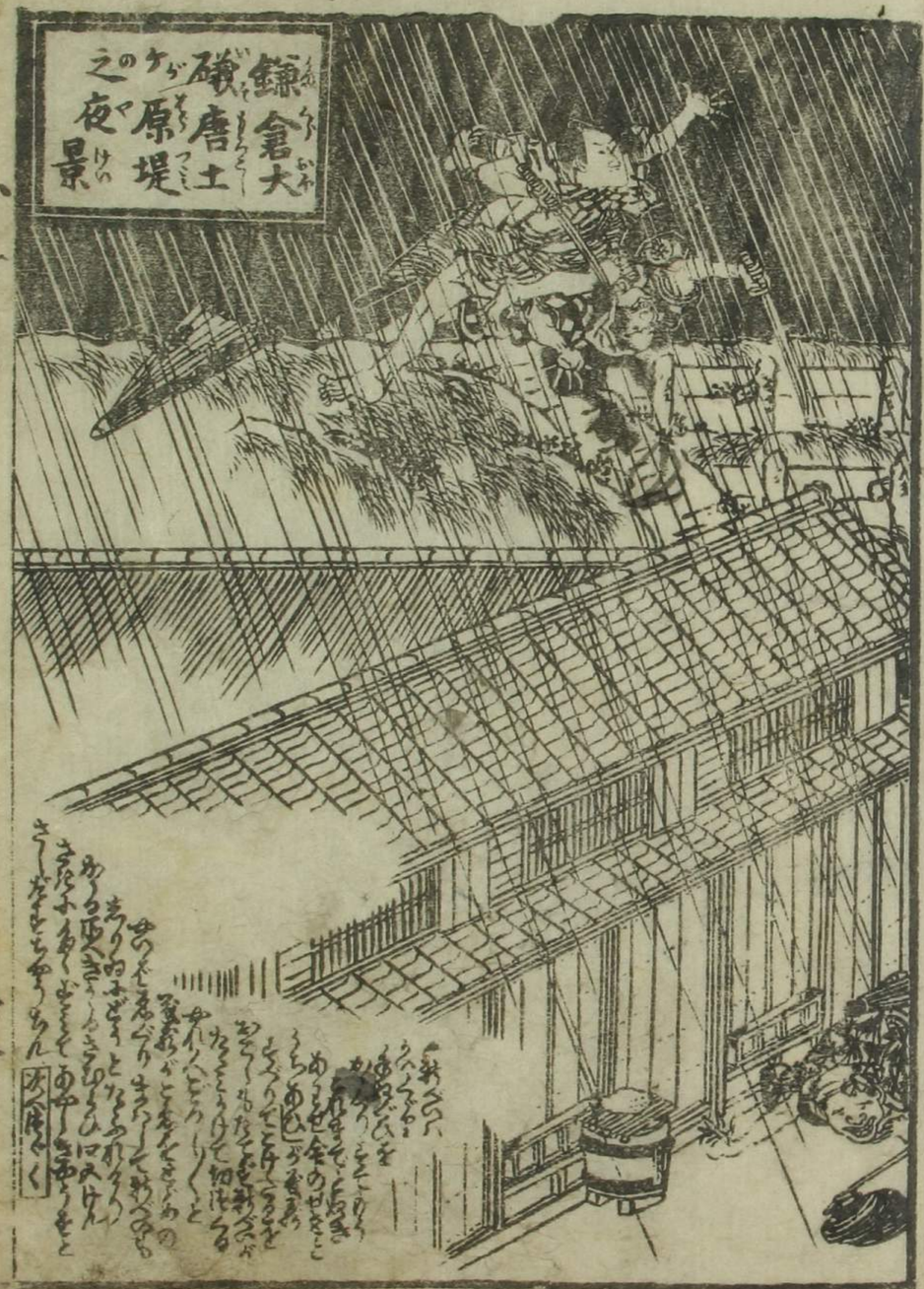
生れ讀見國小女郎後編

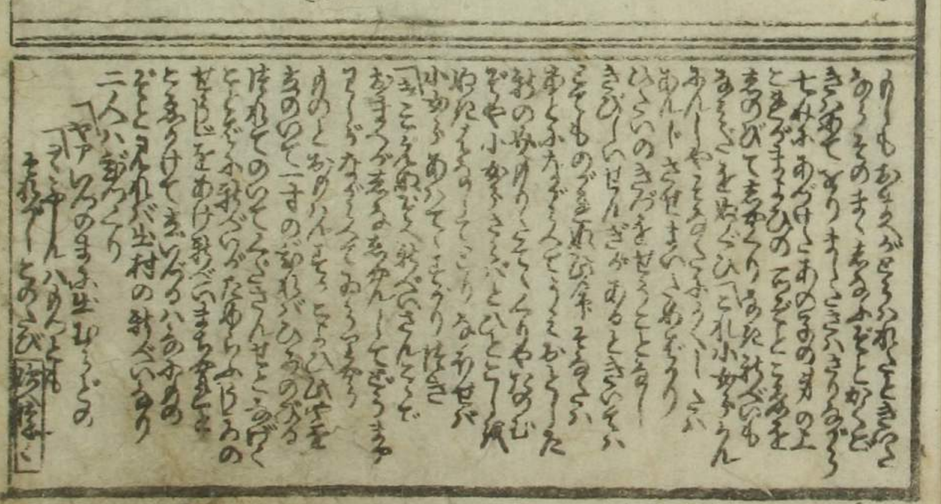
小女郎

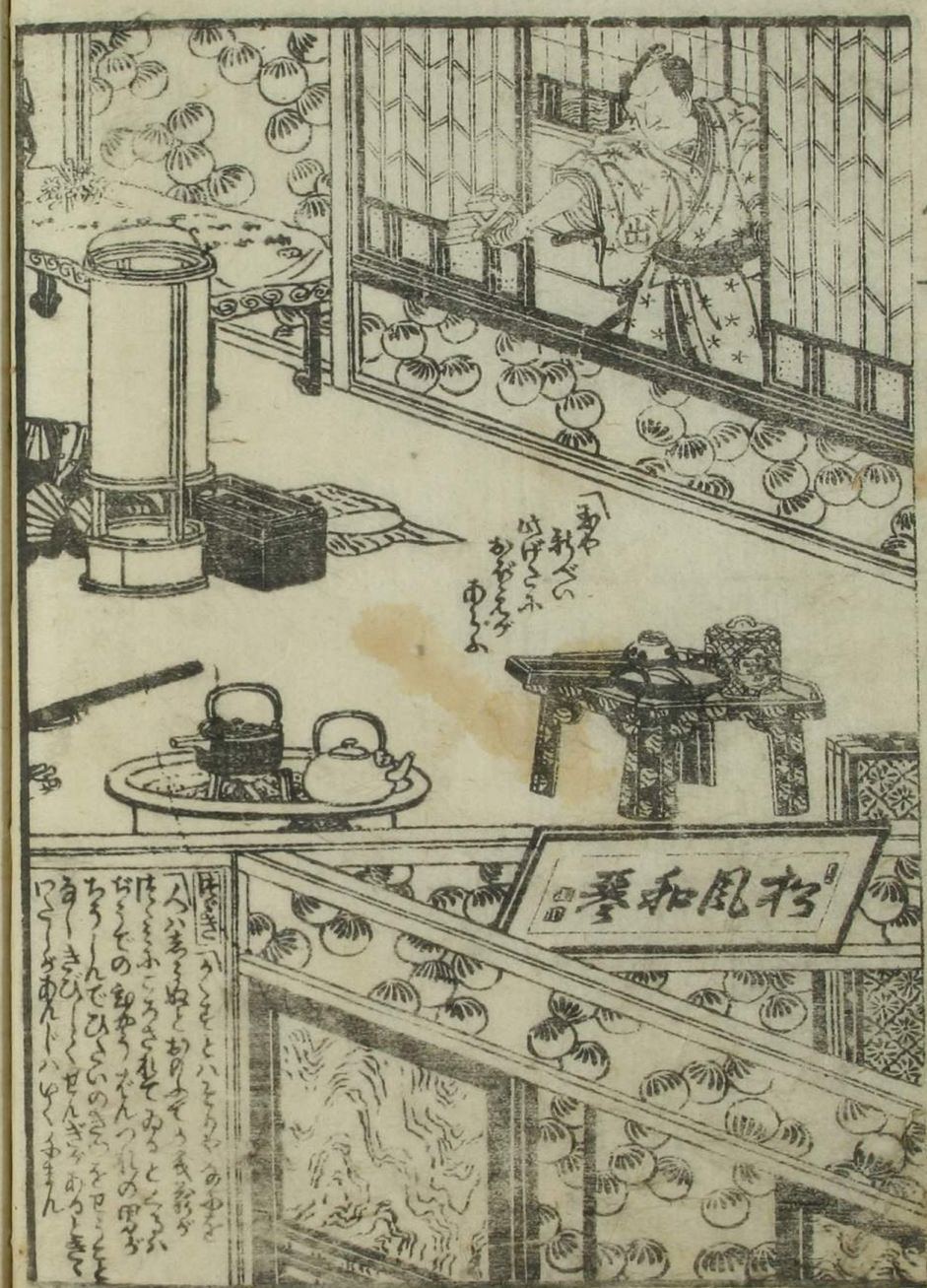
蔵籠
小女郎

花月魁


巻之五


鎌倉大磯唐土ケ原堤之夜景




出
杉風和琴

出村
玉
出
玉
出村
出村
出村

出
玉
出
玉

尾張東壁堂藏板畧書目

直毘靈

本居先生著　全一冊

此一卷は有ゞ中ゆも古学の第一小心ゆべき大事にして儒佛の道〳〵とハなるゑふ意味の書へる事ゆく又皇國の法〳〵の正〳〵く実なる旨ども述て古事記傳の首巻ゆ合して出さまゝを益多ゆ書なり

三大人

門人部中庸考　全一冊

是ハ日月と大地との三ゆを景ゆ彩一家の新説を為なる書ふて古事記傳の光文を述う事記傳十七巻の附巻ゆ成るを別ゆ求ひる人の為ゆ一冊とせ

消息案文　黒沢翁満先生著　上編　全一冊

世ふ消息の書ものしとゝ[illegible]渾要文とのゝ極へく俗用を矢もるを[illegible]
ゝ[illegible]ゝ雅文の[illegible]とりのなし此書ハ中古の雅言と五十字音の
假名とをとて頼字とし[illegible]いろはあの仮ふ[illegible]ひ雅言を撰る捷径ゝて
たゝ人ゝ奉[illegible]の雅[illegible]思ひのるゝと云恐惶謹言をあゝ[illegible]
類ひ或ゝ年改暑寒ゝ[illegible]帳の俗文の下ふ雅言ゝてハ[illegible]ゝ書なゝ
又ハ調度の名の雅俗をつゝちてゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ必全く初学の便[illegible]

碁経奕範　服部因叔著　全二冊

此碁経ハ局ゝ[illegible]ふうち[illegible]ゝを[illegible]ゝ僅ふ一偶をあけて[illegible]ハ一石変
もれハ局中盡く変ゝとゝる意をとりて法学ふ工夫をめぐらさゝむ

後撰和歌集新抄　別記一冊　全十五冊

此書ゝ真淵契仲本居其外諸大人の言説を悉く参考
先人未發の自考を添へ古実規式をゝ[illegible]先詞の[illegible]
仍てふをはのゝ[illegible]ゝ悉くゝきさゝゝて本居大平
翁白系正明先生ふの説英考閲を加へてあゝはをゝとのゝ

延壽養生談　全一冊

此書ハ書生の極秘をゝ[illegible]ゝ平ゝかをゝとゝて[illegible]
されハ如ふゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
をあつめられハ人ゝ平生熟[illegible]快[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
実ふ百年の寿をたゝつゝ[illegible]

養生要論

鈴木離屋先生著　全一冊

先生七十二歳の老を自ら養生の道を試みたる世間長寿壮健の人自然と養生の法ふうのへるものを證據としてその所説をあげ又補薬かゝびの茶飯みどゝとりて養生をすゝめる記ひ却く辭るすなるまとを論ずる

日用藥品考

溶齋先生著　全一冊

此書ハ医家日用の藥品味土金石草木其他俗称の物品ひ山野より自採もべき品ものと家園に培栽もべきこゝの名真偽上下をあゞ和漢の有名を訂し茶舗より於く通用する所の種々の名称印鑑を委く記載せ啓ふ医家日用のなくて多の為賢べき